

日時 平成 25 年 5 月 10 日（金） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

場所 鎌倉市役所本庁舎 4 階 402 会議室

議事

1. 確認事項

【事務局】 事前に送付した「第 6 回専門部会議事録(案)」については、3 月中に委員の皆さんに確認して頂いており、今回送付したものはその内容を反映している。

続いて情報公開、議事録の確認だが、前回同様、今回配付した資料は、全て情報公開の対象としたい。

また、本日の会議の議事録についても原則公開になるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

【部会長】 事務局から議事録の最終確認及び情報公開について確認があったが、よろしいか。

【委員一同】 異議なし。

2. 議題

(1) 平成 25 年度社会実験（案）について

【部会長】 議題（1）について事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料の説明）

【部会長】 只今の事務局からの説明について意見・質問はあるか。

【●●委員】 資料 1 の 8 ページに、鎌倉駅と北鎌倉駅に特別ブースを設置すると記載してあるが、これは JR だけということか。

【事務局】 その通りである。環境手形の発売のときも周知のために特別ブースを設置した。そのときは JR の協力により、鎌倉駅の西口と東口にブースを設け発売した。

【●●委員】 改札の外か。

【事務局】 改札内である。北鎌倉駅は敷地が狭いので、円覚寺に了承を得て特別ブースを設置して発売した。今回も、同様に出来れば良いと思う。

【●●委員】 私は江ノ電沿線に住んでおり、休日の江ノ電は多くの観光客が利用しているが、江ノ電の駅でも特別ブースを設置しないのか。

【事務局】 環境手形は現在でも既に江ノ電の協力により、鎌倉駅、長谷駅で発売しているので、社会実験時には引き続き協力して頂きたい。

【●●委員】 ポスター等を掲示するということか。

【事務局】 その通りである。

【●●委員】 資料 1 の 10 ページ右側のスマートフォンの渋滞情報について、赤色や橙色が明示してあるが、これが渋滞情報か。

【事務局】 その通りである。これは日本道路交通情報センターのホームページからアップロードさせて頂いたのだが、実は鎌倉市内の道路はあまり表示されていない。今後、県警本部と協議をして、鎌倉市内の国道 134 号と県道金沢鎌倉線についても表示できないか検討をお願いしたい。

【●●委員】 渋滞の色が長くなる程、渋滞しているということか。

【事務局】 その通りである。さらに旅行時間情報も提供しているので、目的地まで何分くらい掛かるかが想定できる。

【●●委員】 資料 1 の 3 ページの PTPS について、藤沢市の PTPS はどれくらいの効果があるのか。是非、鎌倉も実施してみてもどうかという意見は出ているのか。

【事務局】 県警本部の交通規制課と循環バスの提案について相談した際に、対象路線で PTPS を実施することが可能であるとの話があった。現在では川崎市、藤沢市、厚木市、秦野市等で PTPS を導入しているが、将来的には神奈川県全域に設置したいとのことである。県警本部は今回の実験に前向きであることから、本資料に掲載している。

【●●委員】 当社でも横須賀市内で PTPS を実施している。システム導入前後で比較をしていないので、定量的な効果を示すことはできないが、間違いなく以前よりスムーズには流れている。以前はバスが遅れることもあったが、現在は時間帯によっては途中の停留所で時間調整を行うときもある。横須賀市の場合は、バス専用レーンを設置していない路線で実施しており、恐らくそれと今回の社会実験でも、何となく気が付くと前よりスムーズになっているというような効果は出るのではないかと期待している。

【●●委員】 J R と江ノ電にお聞きするが、今年のゴールデンウィークは昨年と比べて利用者は増えたのか。

【●●委員】 J R は平年より 20% くらい利用者が増えた。

【●●委員】 5 月 1 日に世界遺産登録について不記載が適当との勧告がなされたが、関係なかったということか。

【●●委員】 その通りである。

【●●委員】 江ノ電も J R と同様に、平年より 20% くらい利用者が増えた。

【●●委員】 世界遺産に登録されなかったら（仮称）世界遺産手形と名乗るのは難しい。

【●●委員】 世界遺産登録については、市長は取り下げたとは発表してない。取り下げた後は新観光手形等の違う名称にしたい。

- 【●●委員】腹案を作っておかなければならないのではないかな。
- 【●●委員】手形の中身は良いが、名称は考えなければならない。
- 【部会長】それでは、(仮称)世界遺産手形に代わる名称を考えたい。何か、腹案があれば意見を頂きたい。
- 【●●委員】日本人は新しくなると改良されているというイメージを持つので、新観光手形など、「新」が付くと良いと思う。
- 【●●委員】ネーミングはキャッチコピーと同じで、重要だと思う。
- 【●●委員】皆が飛びつくような名称はあるか。
- 【●●委員】次回の検討委員会が5月30日なので、それまでに世界遺産の方針がある程度まとまっていなければ、世界遺産という名称が付けられないのではないかな。
- 【●●委員】世界遺産については、ある程度国と調整するとしても、6月24日の総会役員会までには結論が出ないだろうと、先ほど市の関係者と話をした。●●委員が言われたように、6月の国際会議で不登録が決まると再推薦を受けられなくなる。一回取り下げて、新たなコンセプトでもう一回挑戦するという方向になるのではないかな。引き続き世界遺産を目指すのであれば、手形についても世界遺産という名称はどこかに残しておくべきだと思う。(仮称)世界遺産手形は、世界遺産として登録されることを前提にしているのだから、その辺りを見直すのが、今の段階では良いのではないかな。例え別のコンセプトで進めるとしても、恐らく3、4年は掛かる。
- 【●●委員】実験を行うことは良いが、世界遺産と言う名称を使うのは難しいのではないかな。
- 【●●委員】では、文化遺産というのはいかがか。
- 【●●委員】世界遺産はもともと世界文化遺産である。
- 【●●委員】では、世界を取って鎌倉文化遺産はどうか。
- 【●●委員】鎌倉という名称が入り、新しい名称であれば良いと思う。
- 【●●委員】資料1の5ページの循環バスの実施計画についてお聞きしたい。先程事務局が説明された、ハイランドから下りた踏切での渋滞と、その先の下馬の踏切での渋滞は私も巻き込まれたことがある。PTPSの運用を考えているとのことだが、この間には信号がそれ程多くない。そして、交差する道路には大型車両は入れないので、実際にこの幹線道路でPTPSを使って青信号にしても、交差する道路の赤信号が逆に長くなるので、余計に渋滞が悪化するのではないかと危惧している。また、誘導員の配置ということで「踏切交差点各1ヶ所、1日4名で5日間」とあるが、この「交差点」というのはどこを指すのか。
- 【●●委員】ハイランドから下りてきて、踏切を渡った先の交差点を指している。この踏切と交差点付近に4名の誘導員を考えている。具体的には実際に実施できるのかを、バスを現地

で走らせて、県警本部や所轄警察の方に誘導員の配置を含めて確認して頂く必要がある。

【●●委員】 まだ実際に車両は走らせてないということか。

【●●委員】 近々に実施する予定で準備をしている。

【●●委員】 私もこの道をよく通るが、踏切付近では大型車両と普通車がすれ違うのは無理ではないか。

【●●委員】 踏切の中については恐らく無理である。

【●●委員】 ハイランドから踏切を通る際は左折になるので、車体を右に振らないとまず通れないと思う。また、トンネルの方からハイランドに向かって行く時に、踏切の先で右折になるが、それもやはり対向車両があると厳しくなるのではないか。

【●●委員】 そのために誘導員を配置する。踏切付近ですれ違わないように、事前に対向車両を押さえることが必要である。

【●●委員】 対向車両を押さえる場所だけで誘導員が足りるか危惧している。

【●●委員】 それ以外の場所については今でも路線バスが走っているので、そこでもし誘導員が必要ということになれば、今の路線バスの運行自体が危険ということになる。

【●●委員】 バスを通すために、一度交通を止めることによって、渋滞が悪化することはないか。

【●●委員】 程度の問題だと思う。バスが常時走行している状況を想定するのか、1時間に4台くらいなのか、ということを含めて検討する社会実験だと認識している。また、PTPSの信号制御についても、バスが来るまで延々と青にしている訳ではなく、プラスマイナス何%の範囲でしか制御しないので、比較的スムーズに流れると思うが、絶対にバスが赤信号に引っ掛からない訳ではない。PTPSは全国的にも実施しており、また神奈川県でも既に何箇所も実施している中で、対向車両や交差する道路の交通には支障にならない範囲で制御するシステムと聞いている。場合によっては、混雑が悪化するような交差側道路の交通量が多い交差点は対象外となるようなので、懸念する必要はない。

【●●委員】 了解した。

【事務局】 ●●委員の意見についての補足だが、近々県警本部や道路管理者等による現地立会いを予定している。その中で大町側からバスを走らせ踏切に入る状況を確認する。また、PTPSについては、県警本部の専門家が現地の状況に応じた制御を行うので心配はないと考えている。

【部会長】 (仮称)世界遺産手形の名称について、皆さんから変更した方が良いという意見が出たが、専門部会として、5月30日の検討委員会でどのように提案すれば良いのか。

【事務局】 資料1の4ページに(仮称)鎌倉史跡めぐり手形という名称を仮に記載した。でき

ればこの専門部会で協議して決定した方が良い。今日ではなくても構わないので、是非皆さんからアドバイスを頂いて決定したい。

【●●委員】今まで（仮称）世界遺産手形という名称で検討してきた乗車券は、今回の社会実験でPRして売り出していくということだが、今後は現在の「環境手形」に代わり、その拡大版の位置付けで、実験期間終了後も販売するという認識で良いか。

【事務局】その通りである。

【●●委員】了解した。

【●●委員】名称に関しては、鎌倉観光は史跡めぐり以外の目的の人も多いので「史跡」に捉われない方が良いのではないか。

【●●委員】「世界遺産」という名称をどこかに残しておいた方が良いという意見を踏まえ、意識の継続と観光客の賛同意識を高める「世界遺産準備手形」はどうか。

【●●委員】逆にそう熱心になることはないと思う。「鎌倉は鎌倉で良いところだ」という意見も相当多い。世界遺産に登録されればインパクトはあるが、その言葉を出すのはマイナス面があるかもしれない。

【●●委員】PTPSは新規循環路線に導入するのか。それとも、従来の八幡宮方面へ向かうバス路線にも導入するのか。

【事務局】交通事業者との調整により、今回の社会実験では4台のバスで運行しようと考えている。PTPSの実施にはバス車載器のコストが掛かってくる。

【●●委員】4台だけに車載器を取り付けるのか。

【事務局】その通りである。今回の実験では4台に取り付けてPTPSの効果を確認する。ただし、県警本部としては、将来的には全車両のバスに取り付けたいとの意向であることから、これについては今後協議していきたい。

【●●委員】信号制御の補足だが、順方向を制御すれば必然的に逆方向が流れなくなることも考えられるので、バス利用者の多い時間帯は、利用の比較的多い方向がスムーズに走れるように、制御を切り替えるシステムだと聞いている。今回の実験の場合は順方向ではなく循環バスが比較的走りやすい逆方向を制御するであろう。既に運用されている横須賀市では、朝は横須賀駅に向かうルートが比較的順調に流れるようにし、夕方は横須賀駅を出るバスが順調に流れる制御をしていると聞いている。

【●●委員】交差側道路が混むのではなく、対向方向も負の影響を受けるということか。

【●●委員】その通りである。タイミングがずれてくると、同じようなスピードで行くと全部青信号だったものが、場合によっては赤信号が早く表示されるなど、若干ずれてくる。

【部会長】今回は実験としてそのビーコンを設置するのか。

【●●委員】地上側の設備を警察で用意して頂く。

【部会長】それは大掛かりなことである。(仮称)世界遺産手形に代わる名称については最後に意見を伺うので、その他の件について意見を伺いたい。

【●●委員】路線バスの件について、新規循環ルートは、事務局からも話があったように、近々、県警本部や所轄警察、道路管理者等と現地で立会いを行い、実施に向けての問題点を探っていく予定である。小型バスでの運行は、実証実験はともかく本格運行では難しい。実験中は、在来のバス車両のうち、常時4~5台を確保できる中型バス車両(全長9m、全幅2.3m、旅客定員54名)を準備しようと考えている。実験中は通常の路線バスとして運行するため、国に申請する。認可には3ヶ月程度掛かる。1月に運行開始するためには年内の12月には認可を得ておかなければならないので、逆算すると9月の中旬までに運行計画を作成し申請することになる。運賃は、現状は十二所から200円、ハイランドから220円と考えている。利用者は、通常の路線バスと同じように鎌倉駅から杉本観音や浄明寺に行く人、鎌倉駅まで行く人が迂回として利用するので、少なくともハイランドまでは既存のバス運賃を考えている。それ以降は鎌倉駅までの運賃を上限に最大220円の設定が現実的だろうと考えている。

【●●委員】実験時は各委員が現場を見るのも良い。また、スマートフォンのアプリケーションについては、スマートフォンを持ってないので実際に使いこなせるかどうかがよく分からない。

【●●委員】アプリケーションソフトであるが、例として日本道路交通情報センターのホームページが出ているが、道路渋滞情報のアプリケーションは既に使われている。車を利用されない方でも、混雑情報や観光情報のアプリケーションは、若い世代だけでなく、年配の方でも自由に使われていると思う。社会実験費用の確保に実現可能性が見えてきたら具体的に議論すれば良いのではないかと。例え作成したとしても、アプリケーションは山程あるので埋もれてしまうのではないかと心配している。もう少し効果的にアピールするようにしないと、他のより良いアプリケーションに負けてしまって使われなくなることも考えられるので、作り込みは良く考えたい。鎌倉市内には、「日本のシリコンバレー」になるのではないかといいくらい、アプリケーションを作成するベンチャー企業がたくさんある。アプリケーションソフトの作成と合わせ、鎌倉市に立地しているIT関係の企業の経営促進や、若い世代に鎌倉の観光情報や交通情報をアピールする良いきっかけになるのではないかと。そういう意味でも、使ってもらえるアプリケーションソフトを作成することが一番重要である。

【●●委員】駅の改札を出る時または出た後に、スマートフォンをかざすと、デスクトップにアプリケーションが張り付くような仕掛けは可能なのか。

【●●委員】方法は色々あるが、スマートフォンを起動させたままの状態でも位置情報を取りながら、何も操作しなくても情報が得られる方法が一番良いと思う。ただ、一方で最近は個人情報の取り扱いが難しくなっているため注意が必要である。

【●●委員】リアルタイムの情報提供が肝心だと思う。人による情報提供は人件費が掛かるが、

その辺りはどうしたら良いか。

【●●委員】少なくとも渋滞情報を自動的に集め、それをあるエリアに入ってきた人に自動的に提供するなど、リアルタイムでの情報提供は、技術的にそれほど難しくないようである。むしろ、利用したい人が本当にリアルタイムのデータが欲しいのかを、別の機会に精査する必要があると思う。若い人たちは皆スマートフォンの画面を見ながら歩き、下ばかり見て観光地を見ずに歩いてしまうことを危惧している。風景をきちんと見てもらえるような仕掛けも重要だと思う。

【部会長】アプリケーションが使われるような感じはするということか。

【●●委員】アプリケーションの内容を企業にプレゼンテーションしてもらおうと分かりやすいのではないか。

【事務局】●●委員から紹介して頂いた企業にスマートフォンアプリケーション作成の費用を積算してもらったが、新たに今回の実験で市が独自に作成すると、何千万円という単位で費用が掛かることが分かった。その他にも、渋滞情報を事務局で調べたところ、既に交通渋滞情報としては、ナビタイム、NTT、日本道路交通情報センター等でアプリケーションを独自に作成されている。初期画面を作成する程度のお金の掛からない方法でアプリケーションや渋滞情報が提供できればと考えている。社会実験の採択には、新規性が求められ、アプリケーションに費用を掛けても採択されないということを既に確認済みであるので、費用の掛からない方法で取り組みたいと思っている。

【●●委員】スマートフォンの最初のアイデアは、(仮称)世界遺産手形を紙で販売するのも非常に良いが、コストを掛けずに携帯等でダウンロードして、それを見せればバスに乗れるという方法はどうかと話をしたところから始まった。将来的にはスマートフォンで(仮称)世界遺産手形を見せる方法もあるのではないか。アプリケーションが本物か判断するにはSUICA等を使えばうまくいくのではないか。

【●●委員】スマートフォンを車で利用する場合には、運転手以外が操作しないといけないのではないか。

【●●委員】アプリケーションにも助手席ナビというものがあり、基本的には助手席の方が見ることになると思う。

【●●委員】観光情報の提供というのは色々実施されていると思う。フィールドミュージアムという考え方もある。歩く人に対して情報が入るような工夫とタイアップで何か考えられると思う。

【部会長】具体的な作り込みについては、プレゼンテーションを行う方法もあるので、今後検討したい。他に意見はあるか。

【●●委員】渋滞は車が多く走るから起こるが、車に乗っている人は必ずしも定員全員で乗っている訳ではない。例えばフクちゃん号は、ほとんど乗ってなくても定期便として走ってい

るので、空車でも渋滞の原因を作ると思う。道路が混雑している場合は、路線バスの営業台数を減らすという考えはないのか。

【●●委員】法律として認められていない。路線バスは、乗客の有無に関わらず、定められた時間に輸送を提供することが事業の根幹である。乗客がいないから欠車するというのではツアーバスと同じなので、それでは営業の許可を頂いている意味がなくなってしまう。

【●●委員】了解した。

【部会長】基本的には乗用車で人があまり乗ってない車両を郊外に駐車させ、バスでまとめて来てもらうのが、パーク&ライドの考え方である。

【●●委員】5月3日の経験を話したい。鎌倉駅から路線バスに乗ったが、下馬の交差点で何回か信号待ちをしてようやく右折できた。そして六地藏辺りでバスの運転手から「もう降りて歩いた方が早いですよ」と言われた。長谷観音まで40~50分は掛かり、私は一つ手前で降りた。バスを使って観光しようとしていた人達も、時間が大事だということで徒歩に変更することはある。

【●●委員】特異日はバスを間引くという方法もあるかもしれない。その日は運休すると届け出れば良いのだが、それが良い方法かは分からない。

【部会長】本来目指す方向とは真逆になってしまう。手形の名称についてはいかがか。

【事務局】5月30日の検討委員会で、専門部会としての提案を示したい。委員の皆さんから案を幾つか出して頂きたい。

【●●委員】●●委員が先程言われたように、環境手形は環境に配慮するというのでしばらく実施してきた。さらに改善されたという意味で「改善」または「新」という、ごくシンプルなものが良いと思う。「新」だと次々と改善していくという意思表示もある。

【●●委員】「鎌倉史跡めぐり手形」ではなくて、史跡を除いて「鎌倉めぐり手形」というようになるべく簡単な方が良いと思う。

【●●委員】「いざ鎌倉手形」はどうか。

【部会長】既に今まで出して頂いたものと、更に皆さんから頂いた案の中で、皆さんに投票してもらい、上位3つ程度を専門部会の案として出すことで良いか。

【事務局】前回も、●●委員から「道(みち)」という提案があった。事務局で投票用紙を作成し、記入方式で意見を頂きたい。

【部会長】手形の名称はそのようにしたい。他に意見はあるか。

【●●委員】社会実験はこの中のメンバーも参加できるのか。例えば、実験場所でバスに乗ったり、そこでポールを持って立ったりすることができるのか。

【事務局】前回の社会実験は、行政と事業者だけでなく、ボランティアを募った。市民や各大学の学生に募集をしたところ、多くの人数が集まった。今回も皆さんの協力を得てやりたいと思っている。手形発売のPRやチラシの配布等、皆さんの協力が頂ければと思っている。バスについても、乗車して時間の計測をしたり、アンケートを配ったりするような協力を頂ければありがたいと思っている。

【●●委員】フィールドワークのようにボランティアや学生の若い方に参加してもらい、鎌倉を知ってもらうためにも、「そういう社会実験に僕も参加した、私たちも参加した」というような印象に残るようなことも大事だと思うので、是非そのようにしてもらいたい。

【部会長】その通りである。是非そのようにしたい。他に意見はあるか。

【●●委員】実験後のことを考えた方が良い。(仮称)世界遺産手形は継続するとして、ホームページやスマートフォンは閲覧数に関わらずある程度効果があれば継続、あるいは費用対効果がなければ止める。新規循環バスについても交通事業者が費用対効果を検証し、ある程度の収益があれば、市の補助も踏まえ交通事業者が継続するといったような判断基準を持って、来年度以降どうするか議論する段階に来ていると思う。効果検証は全体的に渋滞緩和するかということと、アンケートで判断とのことだが、国への申請書にも効果検証と実験終了後の進め方についての記載が必要なので、次回の専門部会ではより具体的に出せれば良いと思う。また、この取り組み自体を周知する方法として、来年の3月に社会実験のシンポジウム等を行い久保田先生に講演して頂いて、もっと社会にアピールする機会を作ってはどうか。

【事務局】社会実験を行うだけではなくて、皆さんに周知するというのは非常に大事だと思う。シンポジウムやワークショップ等については、できれば委員会で提案して頂き、来年度に予算計化して、検討することを検討したいと考えている。

【●●委員】前回の検討員会で●●委員が述べたように、鎌倉を訪れて観光するにはマナーが必要ということも大事なことである。

【●●委員】前回の委員会では、「かまくら道」という話をしていた。

【●●委員】専門部会に参加頂くまではできなくても、そのような話を仏教会からして頂けると良い。

【事務局】20の施策の1つである環境手形の拡大について、名称を改めるということでこれまで議論してきた。この施策は公共交通の転換方策として実施されてきた。今回は、公共交通の優遇策ということで提案しているが、優遇策という表現が適切か、または転換策のままが良いか、議論して頂きたい。

【部会長】この「優遇策」というのは今回初めて出てきた言葉で、今までは「公共交通への転換方策」であったということか。「転換」と「優遇」の違いが何かを教えてください。

【事務局】今まで、自家用車から公共交通に転換して頂く施策として実施してきた。今回の20の史跡をめぐるために、公共交通を優遇することによって観光するというイメージで、「優遇

策」という表現を提案した。今までの考え方とは少し違うので、表記については専門部会で確認して頂いた方が良く考えた。今まで通り「公共交通の転換策」で良いか。「優遇策」という表現の方がよろしければそのような表記にしたい。

【部会長】この「優遇」というのは、例えば切通しにはこの手形を持っている人しか行けないといった意味か。

【事務局】そうではない。

【●●委員】公共交通の利用を進めるということではないか。

【●●委員】単純に「利用促進策」で良いのではないか。

【●●委員】「利用促進策」で良いと思う。「優遇」だと公共交通事業者を優待するような感じがする。

【事務局】それでは、「優遇策」は、今まで通り「転換策」ということで良いか。

【●●委員】「転換」というよりは「利用促進」で良いのではないか。転換だけではないと思う。

【部会長】「利用促進」で良いのではないか。

【事務局】それでは、「公共交通利用促進策」という名称に変更させて頂く。

3. その他

【事務局】事務局から既に案内通知を郵送しているが、第4回鎌倉市交通計画検討委員会は5月30日木曜日15時から、鎌倉市役所第三分庁舎2階の災害対策本部室にて開催させて頂くのでよろしく願います。

【部会長】よろしければ本日はこれで終了する。

以上